

バンコク国立博物館のコレクション形成史に関する研究

内務省を中心として

平成 18 年入学
派遣先国：タイ
日向 伸介

キーワード：タイ，バンコク国立博物館，コレクション，内務省

対象とする問題の概要

本研究が対象とするバンコク国立博物館は、1874年にラーマ5世王（在位1868～1910年）によって創設されたタイ最古の博物館である。当初は王宮の近衛兵会館内に置かれていたが、1887年に旧副王宮に移設され現在に至る。一般公開されている博物館としては国内最大級の歴史・美術系コレクションを有し、タイを代表する博物館といえるだろう。

同館が現在のようにタイの歴史・美術に特化するようになるのは、1926年に展示内容が大幅に刷新されて以降のことである。このとき、内務省とダムロン親王の私邸から多数の考古遺物がバンコク国立博物館に移管されたことが関係者の記録からわかっている。博物館刷新を指導したダムロン親王は、初代内務相（1892～1915年）として地方統治改革を推進するとともに、タイ国史を初めて叙述した歴史家でもあった。以上のことから、内務省とダムロン親王はバンコク国立博物館のコレクション形成において重要な役割を果たしたと考えられる。



バンコク国立博物館入口（2011年11月17日，筆者撮影）

※前方の土嚢は、2011年7月に発生した大洪水への対策として一時的に置かれたものである。

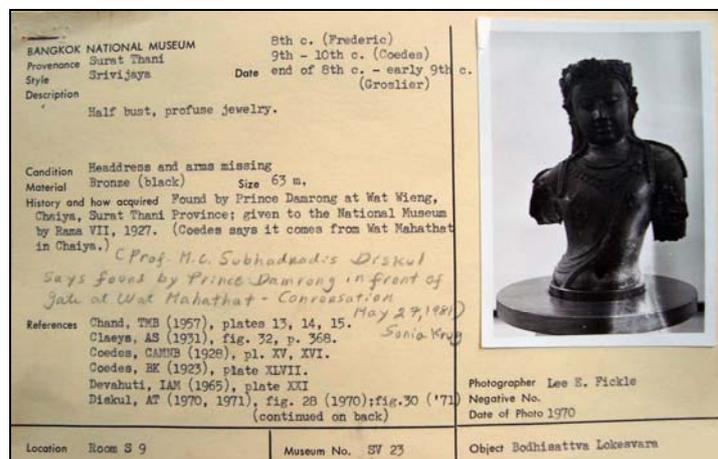
研究目的

本研究の目的は、バンコク国立博物館のコレクションが形成された過程を明らかにすることである。ただし、数万件に及ぶコレクション全体の歴史をまとめて対象とすることは難しい。したがって、博物館の基本方針が現在に近いものへと定められたラーマ7世王治世（1925～1935年）以前に期間を絞ることとする。そのなかでも、考古遺物収集に重要な役割を果たしたと考えられる内務省のネットワークにおもな焦点をあてる。中央集権国家確立の基盤となった内務省が、いつ、どのような範囲から、何を、どのように集めたのかを詳しく検証することにより、近代タイの支配者がその領域や歴史について抱いた意識のあり方を収集という行為から説明することが本研究のねらいである。東南アジア研究の基本文献『想像の共同体』は、博物館がナショナリズムの成立において重要な役割を果たしたと指摘しているが、そのような視点に立ったタイ近代史研究はほぼ皆無であり、本研究の意義は大きいといえよう。

フィールドワークから得られた知見について

今回の調査で得られた第一の知見は、バンコク国立博物館ボランティア会附属の図書室が所蔵する資料カードである。これはボランティア会員みずから作成したもので、博物館所蔵資料の品名、作成年代、状態、収集地、収集年代、収集方法、関連文献、登録番号、展示室などの情報が記載されている。同会のニュースレターによると、カードは1970年代前半に作成されたものとみられる。一部貸出中であったが、閲覧可能であった約3000件分のカードをすべて写真に収めることができた。

同様の情報が記載された所蔵品目録はバンコク国立博物館学術課も所有しており、一般公開はされていないものの、申請すれば部外者であっても閲覧可能である。しかし、それを複製、写真撮影などすることは禁止されているので、主要コレクションを俯瞰することが可能なボランティア会の資料カードは大変貴重な情報源といえる。



資料カードの一例

※本票は、ダムロン親王がタイ南部のチャイヤーで発見した観世音菩薩像である。

タイにおける考古遺物のなかでも、最も有名なもののひとつに数えられる。

第二の知見は、タイ国立公文書館所蔵の一次史料である。今回の調査では、おもに教育省ファイルにあたった。その結果、1928年に内務省からバンコク国立博物館へ移管された計188件の考古遺物目録を入手することができた。これは、バンコク国立博物館の考古遺物カタログを編著したジョルジュ・セデスによってその存在が示唆されながらも、先行研究ではとりあげられることのなかった史料である。

さらに別の史料からは、1919年6月～1920年3月にかけて、当時の教育相タムマサックモントリー

が各州知事の協力によってタイ全土の古跡・考古遺物を調査し、目録を作成していたことが判明した。この目録から、当時の支配者層がどのようなものに歴史的価値を見出し、記録しようとしていたのかを具体的に知ることができる。

今後の展開・反省点

今回の調査では、バンコク国立博物館の主要コレクションの俯瞰が可能な資料カードと、内務省による考古遺物の記録・収集を具体的に示す公文書のコピーを入手することができた。今後はこれらの資料をもとに、博物館コレクションの形成史を近代国家形成との関わりから論じてゆきたい。

反省点としては、内務官僚やダムロン親王が実際に考古遺物の記録・収集をおこなった過程についての史料が得られなかったことである。この点については、次回の調査の課題としたい。



バンコク国立博物館ボランティア会の図書室

※図書室長の Françoise Vincent 氏（写真左）には情報収集にあたり大変お世話になった。

この場を借りてお礼申し上げたい。

参考文献

1. タイ国立公文書館所蔵未刊行公文書資料

(4) ST. 2. 1. 1/ 21: Banchi song khong song ma chak Krasuang Mahatthai.

ST. 5/53: Ruapruam boranwatthu-sathan chak monthon tang tang.

2. 刊行資料

Anderson, Benedict. 1991. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. (1991 revised and Expanded ed.). London: Verso. (アンダーソン, ベネディクト. 2007. 『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆, 白石さや(訳). 書籍工房早山.)

Cœdès, George, ed. 1929. *Boranwatthu nai Phiphitthaphanthasathan Samrap Phranakhon*. Bangkok: Rongphim Sophonphiphatthanakon.

Phunphitsamai Ditsakun, M. C. 1974. “Raek tang phiphitthaphan haeng chat” In *Kitchakan phiphitthaphanthasathan*, edited by Krom Sinlapakon, 1-3. Bangkok: Krom sinlapakon. 2.

3. 雑誌

National Museum Work Study Group. 1974. *Library Catalog. News* (Jan.): 3.